

出雲商工会議所管内 業種別景況（令和3年10月～12月期）

《全業種》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期(令和2年10～12月)と比べた 今期(令和3年10～12月)の状況				前期(令和3年7～9月)と比べた 今期(令和3年10～12月)の状況				今期(令和3年10～12月)と比べた 来期(令和4年1～3月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	40.7	20.3	39.0	1.7	63.3	15.0	21.7	41.7	13.6	30.5	55.9	△ 42.4
2 採算	27.1	33.9	39.0	△ 11.9	33.9	37.3	28.8	5.1	10.2	44.1	45.8	△ 35.6
3 仕入単価	59.3	39.0	1.7	57.6	56.7	43.3	0.0	56.7	55.0	43.3	1.7	53.3
4 従業員数					12.3	78.9	8.8	3.5	1.8	94.7	3.5	△ 1.8
5 資金繰り					8.8	71.9	19.3	△ 10.5	1.7	63.8	34.5	△ 32.8

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		27.1	39.0	33.9		-6.8		32.2	44.1		22.0	10.2		1.7

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	39.3	21.3	0.0	60.7	8 設備店舗の狭小・老朽化	3.3	6.6	11.5	21.3
2 大企業進出による競争激化	4.9	1.6	4.9	11.5	9 取引条件の悪化	0.0	1.6	0.0	1.6
3 製品・商品単価の下落	1.6	0.0	0.0	1.6	10 事業資金の確保難	1.6	8.2	6.6	16.4
4 原材料高及び不足	16.4	23.0	11.5	50.8	11 需要の停滞	6.6	13.1	23.0	42.6
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	3.3	1.6	4.9	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	1.6	1.6
6 人手不足	18.0	1.6	6.6	26.2	13 その他	6.6	0.0	1.6	8.2
7 人件費の増加	0.0	4.9	6.6	11.5	無回答	1.6	14.8	24.6	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

《 製 造 業 》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況 (前年同期と前期との比較)								II 来期の見通し			
	前年同期(令和2年10~12月)と比べた 今期(令和3年10~12月)の状況				前期(令和3年7~9月)と比べた 今期(令和3年10~12月)の状況				今期(令和3年10~12月)と比べた 来期(令和4年1~3月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	62.5	25.0	12.5	50.0	75.0	0.0	25.0	50.0	25.0	25.0	50.0	△ 25.0
2 採算	50.0	25.0	25.0	25.0	50.0	12.5	37.5	12.5	37.5	25.0	37.5	0.0
3 仕入単価	87.5	12.5	0.0	87.5	75.0	25.0	0.0	75.0	75.0	25.0	0.0	75.0
4 従業員数					25.0	62.5	12.5	12.5	12.5	87.5	0.0	12.5
5 資金繰り					25.0	50.0	25.0	0.0	12.5	62.5	25.0	△ 12.5

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I (業況判断指数) とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		25.0	62.5	12.5		12.5		12.5	50.0		37.5	△ 25.0		12.5

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	50.0	37.5	0.0	87.5	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	12.5	25.0	37.5
2 大企業進出による競争激化	0.0	0.0	0.0	0.0	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	0.0	25.0	25.0
4 原材料高及び不足	12.5	37.5	12.5	62.5	11 需要の停滞	12.5	12.5	25.0	50.0
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人手不足	25.0	0.0	0.0	25.0	13 その他	0.0	0.0	0.0	0.0
7 人件費の増加	0.0	0.0	12.5	12.5	無回答	0.0	0.0	0.0	—

注) 「全体」= (1位+2位+3位を選んだ回答数) / 全回答数

3、業界内のトピック (調査対象事業所からの意見等)

- ・コロナによる飲食店に対する酒類提供の制限要請の影響を受けた。
- ・年末に向けては、収束状況が感じられ受注増の期待があったが、その後の新株の流行によりマイナス傾向。
- ・イベントの中止や学校の休業に伴い、関連する印刷物の中止や遅れが生じる。
- ・設備投資を予定するも入手難。
- ・資金繰りに不安。

- ・材料は値上げ傾向にある一方、受注は減少傾向。
- ・鋼材他軽金属の値上がり続く。
- ・小麦等の値上がりが続く。大手も値上げ。
- ・ネット販売は好調のため戦略を練り直す。
- ・新規事業の立ち上げ。

《建設業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況 (前年同期と前期との比較)								II 来期の見通し			
	前年同期(令和2年10~12月)と比べた 今期(令和3年10~12月)の状況				前期(令和3年7~9月)と比べた 今期(令和3年10~12月)の状況				今期(令和3年10~12月)と比べた 来期(令和4年1~3月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	75.0	0.0	25.0	50.0	62.5	25.0	12.5	50.0	25.0	25.0	50.0	△ 25.0
2 採算	37.5	50.0	12.5	25.0	37.5	50.0	12.5	25.0	12.5	62.5	25.0	△ 12.5
3 仕入単価	75.0	25.0	0.0	75.0	62.5	37.5	0.0	62.5	75.0	25.0	0.0	75.0
4 従業員数					12.5	87.5	0.0	12.5	0.0	100.0	0.0	0.0
5 資金繰り					0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I (業況判断指数)とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		50.0	50.0	0.0		50.0		62.5	25.0		12.5	50.0		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	12.5	12.5	0.0	25.0	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	0.0	12.5	12.5
2 大企業進出による競争激化	0.0	0.0	25.0	25.0	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	0.0	0.0	0.0
4 原材料高及び不足	50.0	12.5	0.0	62.5	11 需要の停滞	0.0	0.0	0.0	0.0
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人手不足	25.0	12.5	12.5	50.0	13 その他	12.5	0.0	0.0	12.5
7 人件費の増加	0.0	25.0	12.5	37.5	無回答	0.0	37.5	37.5	—

注) 「全体」= (1位+2位+3位を選んだ回答数) / 全回答数

3、業界内のトピック (調査対象事業所からの意見等)

- ・木材・その他多くの材料の値上げは利益に影響。
- ・材料の値上げと受注の減少。
- ・材料が入荷しないため工期が延びている。
- ・生産ラインの遅れでエコキュートやトイレ等の製品入荷が遅延。今後の売上確保に懸念。
- ・ワクチン接種により昨年後半より受注が増えたが、オミクロンの影響で受注が確保できるか心配。

- ・仕事はあっても人手不足で受注が増やせない。
- ・社員の高齢化。
- ・イベントを控え、ネットでの情報発信に力を入れる。
- ・新築物件が多い。
- ・コロナの影響は現在はないが、感染の速さに今後を懸念。

《卸・小売業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況 (前年同期と前期との比較)								II 来期の見通し			
	前年同期(令和2年10~12月)と比べた 今期(令和3年10~12月)の状況				前期(令和3年7~9月)と比べた 今期(令和3年10~12月)の状況				今期(令和3年10~12月)と比べた 来期(令和4年1~3月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	38.9	11.1	50.0	△ 11.1	47.4	21.1	31.6	15.8	16.7	38.9	44.4	△ 27.8
2 採算	22.2	27.8	50.0	△ 27.8	26.3	42.1	31.6	△ 5.3	10.5	42.1	47.4	△ 36.8
3 仕入単価	50.0	50.0	0.0	50.0	42.1	57.9	0.0	42.1	57.9	42.1	0.0	57.9
4 従業員数					5.3	89.5	5.3	0.0	0.0	94.7	5.3	△ 5.3
5 資金繰り					5.3	78.9	15.8	△ 10.5	0.0	47.4	52.6	△ 52.6

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I (業況判断指数) とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		27.8	33.3	38.9		-11.1		29.4	58.8		11.8	17.6		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	36.8	21.1	0.0	57.9	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	10.5	15.8	26.3
2 大企業進出による競争激化	5.3	5.3	0.0	10.5	9 取引条件の悪化	0.0	5.3	0.0	5.3
3 製品・商品単価の下落	5.3	0.0	0.0	5.3	10 事業資金の確保難	5.3	10.5	0.0	15.8
4 原材料高及び不足	15.8	15.8	10.5	42.1	11 需要の停滞	5.3	15.8	31.6	52.6
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	5.3	5.3	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人手不足	15.8	0.0	15.8	31.6	13 その他	10.5	0.0	0.0	10.5
7 人件費の増加	0.0	5.3	10.5	15.8	無回答	0.0	10.5	10.5	—

注) 「全体」 = (1位 + 2位 + 3位を選んだ回答数) / 全回答数

3、業界内のトピック (調査対象事業所からの意見等)

- ・需要停滞による他社との価格競争の激化。
- ・海外製品の入荷遅れ、品切れ、生産中止の増加。
- ・建築資材の高騰と不足が今後の売上へ影響。
- ・資材・製品不足が新年度以降継続する見込み。在庫過多でCF低下
- ・半導体不足で商品供給できない状況。春先までは売上が伸びない。
- ・製品価格高騰と建設会社の卸を通さない仕入増加

- ・材料の値上がり分の価格転嫁が難しい。
- ・原油価格の上昇分を価格転嫁できない。
- ・飲み屋街、ホテルに近い今後客数の減少を予測。
 - ・コロナ感染者数の増加で来店者数減。
 - ・現在影響はないが、今後お客様がコロナで利益を確保できないことによるしわ寄せを懸念。
 - ・新聞離れ、購読者数の減少、チラシの伸び悩み。
 - ・介護福祉関連・災害復旧・防災関連向け商品の関心が高まっている。
- ・地元や県内での買い物機会の増加。
- ・高齢者からの依頼の増加。
- ・中・長期的経営戦略の見直しが必要。

《サービス業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況 (前年同期と前期との比較)								II 来期の見通し			
	前年同期(令和2年10~12月)と比べた 今期(令和3年10~12月)の状況				前期(令和3年7~9月)と比べた 今期(令和3年10~12月)の状況				今期(令和3年10~12月)と比べた 来期(令和4年1~3月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	30.8	30.8	38.5	△ 7.7	69.2	15.4	15.4	53.8	7.7	38.5	53.8	△ 46.2
2 採算	23.1	46.2	30.8	△ 7.7	38.5	38.5	23.1	15.4	0.0	61.5	38.5	△ 38.5
3 仕入単価	30.8	61.5	7.7	23.1	46.2	53.8	0.0	46.2	23.1	69.2	7.7	15.4
4 従業員数					15.4	69.2	15.4	0.0	0.0	92.3	7.7	△ 7.7
5 資金繰り					16.7	66.7	16.7	0.0	0.0	83.3	16.7	△ 16.7

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I (業況判断指数)とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		30.8	46.2	23.1		7.7		61.5	15.4		23.1	38.5		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	35.7	7.1	0.0	42.9	8 設備店舗の狭小・老朽化	7.1	7.1	7.1	21.4
2 大企業進出による競争激化	14.3	0.0	7.1	21.4	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	7.1	14.3	21.4
4 原材料高及び不足	7.1	21.4	0.0	28.6	11 需要の停滞	7.1	14.3	21.4	42.9
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	14.3	0.0	14.3	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人手不足	21.4	0.0	0.0	21.4	13 その他	0.0	0.0	0.0	0.0
7 人件費の増加	0.0	0.0	0.0	0.0	無回答	7.1	28.6	50.0	—

注) 「全体」= (1位+2位+3位を選んだ回答数) / 全回答数

3、業界内のトピック (調査対象事業所からの意見等)

- ・コロナとWeLove山陰キャンペーン停止の影響。
- ・学生がアルバイトできないことによる人員不足の発生。
- ・業者の来店がなく情報が入ってこない。
- ・コロナ以降メーカーが開催する講習会が開催されない。

- ・消費のネット物流への移行に伴う、店頭購入の減。
- ・ウェブ商談の増加
- ・今後SNS活用による集客に力を入れる。

- ・コロナ慣れにより、一時気より影響は少ない。
- ・学校の休校に伴い、世話する親・祖父母が外出できない。
- ・県外外出やイベントもなく、マイナスの影響。

《 飲 食 業 》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況 (前年同期と前期との比較)								II 来期の見通し			
	前年同期(令和2年10~12月)と比べた 今期(令和3年10~12月)の状況				前期(令和3年7~9月)と比べた 今期(令和3年10~12月)の状況				今期(令和3年10~12月)と比べた 来期(令和4年1~3月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	16.7	33.3	50.0	△ 33.3	75.0	8.3	16.7	58.3	0.0	16.7	83.3	△ 83.3
2 採算	16.7	25.0	58.3	△ 41.7	27.3	36.4	36.4	△ 9.1	0.0	27.3	72.7	△ 72.7
3 仕入単価	75.0	25.0	0.0	75.0	75.0	25.0	0.0	75.0	58.3	41.7	0.0	58.3
4 従業員数					11.1	77.8	11.1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
5 資金繰り					0.0	60.0	40.0	△ 40.0	0.0	45.5	54.5	△ 54.5

注) ↑ 増加・上昇・過剰・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・不足・悪化

注) D I (業況判断指数) とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		8.3	16.7	75.0		-66.7		0.0	66.7		33.3	-33.3		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	58.3	33.3	0.0	91.7	8 設備店舗の狭小・老朽化	8.3	0.0	0.0	8.3
2 大企業進出による競争激化	0.0	0.0	0.0	0.0	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	16.7	0.0	16.7
4 原材料高及び不足	8.3	33.3	33.3	75.0	11 需要の停滞	8.3	16.7	25.0	50.0
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	8.3	8.3
6 人手不足	8.3	0.0	0.0	8.3	13 その他	8.3	0.0	8.3	16.7
7 人件費の増加	0.0	0.0	0.0	0.0	無回答	0.0	0.0	25.0	—

注) 「全体」 = (1位 + 2位 + 3位を選んだ回答数) / 全回答数

3、業界内のトピック (調査対象事業所からの意見等)

- ・コロナ感染者が市内に発生するとたちまち来客数が減る。
- ・経営はコロナの状況次第。
- ・コーヒー生豆価格の上昇。
- ・1月から予約キャンセル、来店減少。
- ・国の施策に左右される。
- ・待つてダメなら移動販売を実施する。